

沖縄タイムス  
2009年9月29日（火）第8面に掲載

## 日本畜産学会 県内で初開催

きょうまで 琉大

全国の大学や公設研究機関  
などの畜産研究者が集まる日

本畜産学会（理事長・田斐藏  
日大教授）の大会が28日、西  
原町の琉球大学内で始まっ  
た。

29日までの期間中、育種や  
病害対策、畜産経営や遺伝子  
工学など幅広い分野の研究者  
による10分科会約320テー  
マの一般講演を中心に、関連  
シンポジウムや研究会などが  
行われる。

県内では初開催。28日は、  
最近黒毛和牛の肉の締まりが  
悪いために肉質等級が低く評  
価される傾向が強まっている  
背景を探った帯広畜産大大学  
院のグループなどが発表し  
た。

若手研究者によるパネル  
討議や畜産業と環境をテー  
マにした公開プログラムも  
あり、学生や研究者だけで  
なく関連する企業関係者も  
いた。

## 家畜福祉 進めよう

畜産学会シンポジウム

沖縄県西原町で28日から始まった日本畜産学会第111回大会で、畜産と環境問題でシンポジウムがあり、アニマルウェルフェア（家畜福祉）が大きなテーマとなった。パネリストからは今後の畜産研究で家畜福祉に関する分野の早急な取り組みが重要だとの意見が相次いだ。麻布大学の押田

敏雄教授は、牛や豚の枝肉の肉質評価を下げる変色や染みなどの発生要因の一つに、輸送や、と畜場でのストレスも含まれると指摘。「家畜の生産

性改善にはストレス解消に向けた家畜福祉の取り組みが重要」と、この分野での研究の進展を訴えた。一方、帯広畜産大学の

瀬尾哲也助教は家畜福祉の分野で特に欧州連合（EU）がブランド戦略まで念頭に置いた取り組みを進めている現状を紹介した。

# 環境、衛生での 畜産の役割指摘

畜産学会 若手研究者が討論も

2009年度の日本畜産  
学会が28日、西原町の琉球  
大学で開かれた。343の  
専門演題発表と一般公開の



日本畜産学会で意見交換する畜産  
分野の若手研究者ら。28日、西原  
町の琉球大学

シンポジウムを開催。全国  
から畜産研究者が集い、日  
ごろの研究成果を発表し  
た。シンポジウムでは、畜  
産学や獣医学は産業的側面  
だけでなく、希少生物の保  
護や公衆衛生などの分野で  
も果たす役割が大きいと指  
摘した。

講演した特定非営利活動  
法人（NPO法人）どうぶ  
つたちの病院の中谷裕美子  
獣医師は、同NPOが取り  
組んでいるヤンバルクイナ

の保護・繁殖活動に触れ、  
「動物園や畜産が蓄積した  
知識・技術が不可欠」と強調  
した。具体例として、ヤン  
バルクイナを捕食するマン  
グースを捕獲するための誘  
因物質の開発やヤンバルク  
イナの人工孵化には、牛や  
家禽類など畜産分野の技術  
が応用されたことを挙げた。  
若手研究者らが登壇した  
討論会では、研究職に携わ  
ることを望む学生や若手研  
究者が安定した職を得るこ  
とが困難となっている「高  
学歴ワーキングプア」や  
「高学歴難民」の解決を求  
める声が多く上がった。